

# たて穴住居とは・・・

たて穴住居は、縄文時代から古墳時代の間で作られていました。昔の人は、くぎやはり金を使わずに、たて穴住居を作っていました。私は昔の人はたいへんだったと思います。私達のクラスは人数が少なかったけど、がんばってつくりました。

## お祝い会



## たて穴住居が完成





たて穴住居を作っている所



屋根の所を作っている所



かべを作っている所



入り口の上を作っている所

しなの 長野県立歴史館にある弥生時代の  
科野の里を復元した「たて穴式住居」

## たて穴住居づくりのきっかけ

### 4年生のころ

2006年の4月、ぼく達が4年生になった年、担任の先生が変わりました。その先生は、自然を観察するのが好きで、毎週、総合の時間に「自然観察」という、外に出て自然を観察する授業がありました。

長野市の南にある清野小学校は、北には長茅畑、東には田畑、南には直径約30メートルの大きさの大里白鳥の池、西には甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信が戦った川中島の戦いの時に上杉謙信が陣取って、武田の動きを見ていたと言われる妻女山と、学校の周りには自然がたくさんあります。妻女山のふもとには、卒業生が作った「勇氣ランド」というアスレチックもあります。こういう環境に囲まれているおかげで毎週、生き物がたくさんいる大里白鳥の池、妻女山などについて生き物をつかまえたり観察ができたのです。



### 5年生のころ

5年生の時には4年生の時に観察した生き物のことを「昆虫」「鳥」「植物」「水の中の生き物」と分け、文章を書いて「清野図鑑」という本を作りました。

## 6年生になって

6年生になってから一ヶ月がたった5月、今年は総合の時間にどんな活動をするのかを話し合う時間がありました。みんな、いろんな意見がありました。みんなが賛成したのは秘密基地をつくる活動でした。

活動が決まったら、どんな秘密基地をどこにつくるかを考えました。

これは、2つの考えがありました。1つは、妻女山の斜面につくる山小屋

のような秘密基地です(図の左)。もう1つは、畑などの平地につくるたて穴住居風の秘密基地です(図の右)。

この、どちらにするか、考えているうちに、秘密基地をつくるのではなく、6年生全員が住めそうな？小屋をつくることにしました。

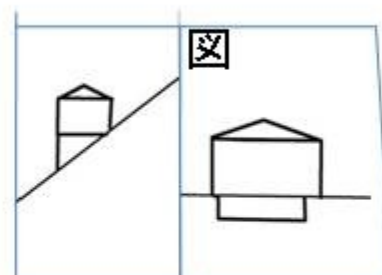
小屋ということに決めた後、どちらにするかを実際につくることを想像しながら決めました。

結果、たて穴住居風的小屋をつくることに決めました。斜面につくると、いくら山に慣れているとしても、材料を運ぶのもきついし、「斜面につくるのはとても大変だぞ」と先生に言われたからです。それに、穴を掘るとその分、柱や板の長さが節約できるからです。

その時、こんな意見が出ました。

「今、社会の歴史で習っているたて穴住居をつくろうよ。」

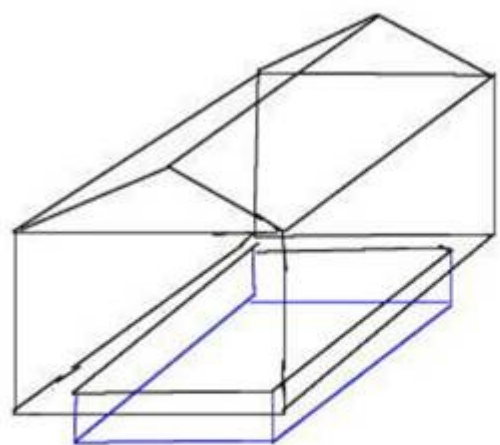
「あ～そうだね。」と全員賛成して小屋からたて穴住居に変わり、やっとたて穴住居づくりが始まりました。



## 自分達がイメージしているたて穴住居を模型で作る

たて穴住居をつくるにも、家をつくるにも、どんな形をしていて、どのぐらいの大きさのをつくるのか分かっていないとつくれません。そこで、どんな形の、どのぐらいの大きさのたて穴住居をつくるかを話し合いました。

意見は、大きく2つに分かれました。1つ目は、本物のようにかべをななめにし、わらなどの草で屋根をつくるたて穴住居です。2つ目は、今の家のような形で、かべや屋根も板でできている、外から見るとたて穴住居には見えない住居です。この2つの住居のいいところをおたがい話し合っ、いいところを合わせた、たて穴住居のイメージが完成しました。



← 2つ目のたて穴住居のイメージ  
青い線が穴の部分。

→ 長野県立歴史館のたて穴住居  
1つ目のイメージに似ている。



## たて穴式住居の場所探し！

- ・最初、たて穴式住居を作る場所は校庭のバックネットの裏の予定でした。でも、土地が狭かったり土が堅かったり育成会の野球やソフトボールや授業などのじゃまになるので、そこはやめる事にしました。
- ・土地を探しているときに、ちょうどよさそうな畑がありました。近くの畑の人に聞いてみると、知っている人の畑だったので、お手紙を出して許可をもらいました。



## やり方と手順について



1. 穴掘り      なぜ、穴なんか掘るのかというと穴を掘ると冬は暖かく夏は涼しいので、僕達も縦4メートル横4メートル深さ50センチメートルの穴を掘ることにしました。畑なので、掘りやすいかと、思ったら以外に堅くて大変でした。しかも、いくらやっても終わらないので、深さを30センチメートルに変えました。それでも、大変でした。でも運良く途中で雨が、降ったので土が柔らかくなってやっと掘ることができました。その後、柱を建てるために40センチメートルの穴を掘りました。

2. 骨組み      穴が掘れたら次は、一番重要な柱を建てます。柱がななめになると、竪穴住居のバランスが悪くなり風などで、弱くなってしまうので、ななめにならないように保護者の方に大工さんがいらしたので、お願いして手伝ってもらった事にしました。

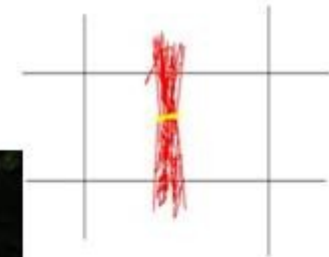
柱を建てたら、次は柱と柱の間に竹を結び付けました。



3. 屋根作り 屋根は、最初自分達でヨシを集めて来てひもで、結び付けました。でも、ヨシが全然たりなくて、保護者の方にヨシズを張ってもらいました。頑張っヨシを集めたのに活用できなくて、ちょっとショックだけど、屋根が完成できてよかったです。



4. 壁作り 壁はわらで作りしました。わらは、近くの農家の人にもらいました。そのわらを、直径10cmほどの束にして下の図のように一つ一つを竹と竹の間にはめ込んでいきました。(赤がわらで、黄がひもで、黒が竹です。)出来るだけ、すき間が出来たり穴があいたりしないようにきつくきつめました。



正面から見た図



横から見た図

## たて穴住居に使った材料

たて穴住居に使った材料は、  
わら・木・竹・ヨシズ・机の板  
を使いました。



- ・わらは、地域の方々にもらいました。
- ・木は、森林組合の人からもらいました。
- ・竹とヨシズは、保護者の方にもらいました。
- ・机の板は、学校でいらなくなった机を分解して使いました。

わらはは、壁につかいました。➡



➡ 木と竹は、骨組みにつかいました。

➡ ヨシズは、屋根につかいました。



➡ 机の板は、土がくずれないようにつかいました。

# 完成まぎわの様子



もう少しで  
完成ピー！



私達がつくったたて穴住居は2008年の11月下旬に完成しました。



みんなで協力して、やっと「完成」させることができました。  
たて穴住居をつくるのは、大変だったけどとてもたのしかったです。  
協力してくれたみなさん本当にありがとうございました！

# たて穴住居を造るときにつらかったこと

ベスト3



1. 穴掘り 僕たちは、縦4メートル、横4メートル、深さ30センチメートルの穴を掘りました。だけど土は、堅くて掘りにくい土でした。とても時間がかかってつらかったです。
2. 壁作り わらですき間なく壁を作る。すき間なくうめるためにひもでがちがちに固定するのが大変だった。
3. 入り口 たて穴住居独特の突き出ている入り口のわらの付け方などを工夫して付けるのが大変だった。



# お祝い会について

豚汁を作って全校を呼び  
みんなで食べたゾ！



たて穴住居が完成したため、住居をつくった時にお世話になった人を招待してお祝い会をしました。みんな喜んでくれました。



この写真は、お祝い会に招待した方にたて穴住居をつくったきっかけや土地・大きさ・材料のことなど話しているところです。

全校のみんなも招待して一緒に説明を聞いたり豚汁を食べたりしました。

みんな喜んでくれたのでよかったです。

## ★縄文時代の料理体験★

そもそも、「縄文時代の料理体験」は、たて穴住居が完成して、先生の「縄文時代の料理体験やってみる？」の一言で始まりました。  
前に博物館に勤めていた先生が教えてくださり、とてもいい勉強になりました(°Д°)



石を火で熱して水の入ったバケツにいれます。  
たくさん入れると水がふっとうしてきます。そこにほうれんそう(ゆでたいもの)を入れます。

野菜そのものの味が味わえて  
とてもおいしかったです。



黒曜石

昔は黒曜石で矢じりを作り木や竹の棒などにつなげてやりを作ったそうです。  
また、黒曜石をくだいて包丁も作ったそうです。





ジンギスカンやさんまを火で熱した大きな石の上で焼きました。みんなでジンギスカン・さんまの争だつ戦が始まりました。



地面に穴をほって火で熱した石と新聞紙とアルミホイルで包んだ小さめのさつまいもを入れます。



たき火でやるよりとてもあまくておいしかったです！

